

「上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』を読む」 第12章「女たちのサバイバルのために」

〈この章を読んだ印象をグループで話してみよう〉

男性の職場崩壊を招いたのは女性なのか？

「バリキャリ、ハピキャリ、マミートラック」言い方をどう思いますか？

「収入源をマルチプルにして、リスク分散をする」という提案をどのように考えますか？

〈ことば〉

義憤(ぎふん)にあふれる = 正義のため/道を外れたことに対して感じる怒り

迂遠(うげん)にすぎる = 遠回りしている。すぐには役立たない。

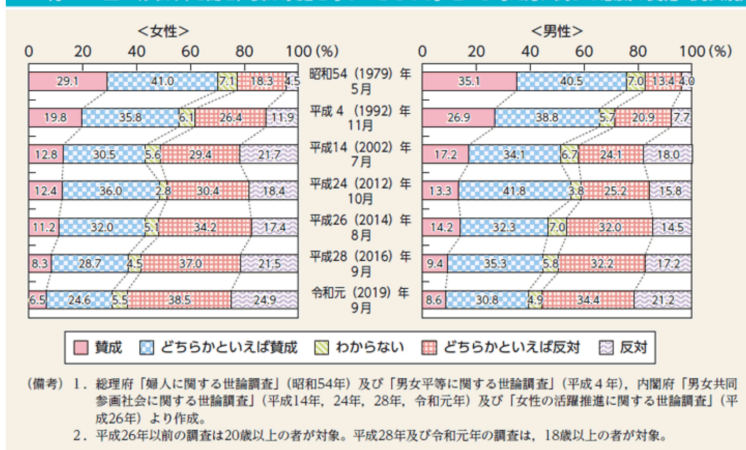
雲散霧消(うんさんむしょう) = 雲や霧が消えるように、跡形もなく消えること。

パパクォータ制 = 育休の一定期間を父親に割り当てるもの

〈この章のトピック〉

男女共同参画白書令和2年より

I-特-13図 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化(男女別)



←このグラフからどんなことが読み取れますか。グループで話してみよう。

欧米社会の変化と日本社会との違い → 欧米社会が70年代から30年掛けて変化したように日本社会は変わらない → どの社会の変化にも、世界史的な同時性とともにもその社会独自の経路依存性があるため。 = 同じ世界史的環境に置かれながら、変化を経験せずにきた日本社会にどんな特徴や問題があるのか問われなければならない。

→ 30年前と異なる現在の問題 = 東西冷戦構造の崩壊とグローバル化の進展

アジアの台頭と日本の衰退

少子高齢化の進展

女性の社会進出は社会的要請によるもの→家族観やジェンダーの変化→離婚率上昇・婚外子増
晩婚、高齢出産の勧め？生むことを先延ばしにするだけ。

早く産みたい女性や産んでしまった女性はどうすればいいのか？

バリキャリかハピキャリか、という問いは、総合職か一般職かという問いと変わらない

夫に家事や育児を望んでいない妻→自分の職業より夫の職業のほうが優位にあり、自分の職業上の不利を引き受ける方がその逆よりも合理的な選択だ。

エリートの女性は、夫がエリートでないことを許せない。子どももエリートでないことを許せない。

世界の先進国にあって日本にないもの＝移民労働者

「グローバル化とは、カネ・モノ・人の国際移動の増加とそれに伴う国内外の秩序の再編過程である」このうち、人の移動が最後に来る。＝移民労働力なしには経済が成り立たない

日本と欧米社会の世界史的な共通点と相違点（他の社会の女性たちを踏み台にする社会）

上野さんが提案する「サバイバル作戦」

〔1〕制度の変更

①国家レベルで変更が可能なこと

社会保障（企業福祉・生計・住宅・資産形成・老後）を国家が請け負う

社会保障を世帯単位から個人単位に変える（妻が夫の社会保障に依存しなくても済む）

フレックス制、しかも働く側にとって不利にならないフレックスの導入

②企業レベルで変更が可能なこと

離職が不利になるようなルールを改正

企業行動の慣性をなくす

多様性のある企業（性別・国籍・マイノリティ等）異文化共生のできる企業

③私的レベルで変更が可能なこと

婚活か就活か／夫への依存か会社への依存かの2択をやめる

ひとりの人間やひとつの組織に自分の運命を預けない＋複数の収入源

複数の職業を組み合わせることで収入を得る

〔2〕サステイナブルよりもサバイバル

弱者の共助け＝ユニオンの活用

ユニオン＝不当労働行為で不利益を受けた行き場のない労働者たちが作った団体

政治や制度は変えられないが、自分の周囲は自分と仲間と帰られるかもしれない